

## 2018年度学科目標

### A. 資格取得

#### 【目標】

	2019年卒業時	合格済	下級・科目合格	今後受験者	達成まで
① 危険物乙種四類	50%	5名	—	8名	2名
② 航空無線通信士	20%	1名	1科目7名	12名	2名
③ 航空特殊無線	40%	1名	—	12名	4名
④ 英検準二級	20%	0名	3級4名	13名	3名
⑤ TOEIC400点	10%	0名	300点台3名	13名	2名
⑥ 貿易実務C級	20%	0名	—	13名	3名

#### 【実績】

	2018年卒実績	2017年卒実績	2016年卒実績	全国平均
⑦ 危険物乙種四類	44%(8名/18名)	58%(14名/24名)	56%(5名/9名)	34.4%
⑧ 航空無線通信士	17%(3名/18名)	17%(4名/24名)	44%(4名/9名)	35.3%
⑨ 航空特殊無線	61%(11名/18名)	NIL	NIL	72.3%
⑩ 英検準二級	33%(6名/18名)	17%(4名/24名)	67%(6名/9名)	36.9%
⑪ TOEIC400点	11%(2名/18名)	8%(2名/24名)	NIL	569.2
⑫ 貿易実務C級	0%(0名/18名)	NIL	NIL	58.4%

### B. 重点施策

#### ① 資格取得率の目標達成

- ・関連する授業のある上記①～⑥の資格試験は原則全員を受験させ、通常授業および試験1か月前からの資格対策でバックアップする。
- ・上記資格に加え、けん引免許、大型特殊免許、フォークリフト、ガス溶接、アーク溶接の計11種類の中から1年間で2種類、卒業までにさらに2種類以上の計4種類以上を取得させる。
- ・個人別に目標を立てさせ、今年度中に取得したい資格と取得状況を教室内に掲示し、常にクラス全員で達成状況を意識し、競い合う雰囲気を育てる。
- ・模擬テストを定期的に行い、資格試験へのモチベーションを高める。資格スケジュールをクラスに掲示する。(スケジュール別紙添付)

- ② 卒業生を招いた講演および企業や施設見学の実施
  - ・卒業生を招き、資格の重要性・必要性を学生たちにアピールし、資格取得や就職に対するモチベーションアップを図る。(1年次10月中旬、2年次4月中旬)
  - ・就職講話を通し、航空業界への就職率100%の達成と航空業界における就職先企業の拡大を目指す。
  
- ③ 進級率100%(1年生)及び卒業率100%(2年生)の達成
  
- ④ 人間力向上のための取り組み
- ※ ③、④に関する具体的な取り組みとして特別授業(別紙参照)を行う。

# 2018年度 電気機械科【学科目標】具体的施策

## ①資格取得率の向上

### 【一年次/1種類以上/ 90%】

- ・一年次に取得可能な資格を教室内に掲示。年間での個人別目標を立てさせる
- ・資格の重要性・必要性を具体的に何回も説明する（職種別）
- ・夏休を利用しての資格別講習会【第一種電気工事士の筆記対策講座を予定】
- ・個人別に1年間で絶対に取得したい資格を1つ掲げて、教室内に掲示
- ・就職講話を適時実施し、学生のモチベーションアップを図る【一年次10月中旬、二年次4月中旬】年2回

### 【二年次/2種類以上/ 80%】

- ・一年次に目標に掲げたが、取得出来なかった資格への再挑戦
- ・就職活動を視野に入れた、取得戦略を立てる
- ・夏休を利用しての資格別講習会【第一種電気工事士の筆記対策講座を予定】
- ・個人別に1年間で絶対に取得したい資格を二つ掲げて、教室内に掲示

### 【卒業までに3種類以上/ 90%】

- ・資格年間カレンダーを教室内に掲示
- ・上期・下期や年末等の節目に現在の目標達成度を確認させる

No.	【資格名】	【2018年目標】	【2017年目標】	【2017年度】	実績	全国平均
1	第一種電気工事士	40%	40%	38%	5名/13名	32.4%
2	第二種電気工事士	70%	70%	88%	22名/25名	40.7%
3	二級電気工事施工管理技士(学科)	70%	80%	50%	2名/4名	58.7%
4	二級管工事施工管理技士(学科)	70%	80%	57%	8名/14名	49.0%
5	危険物取扱者 乙種第四類	35%	50%	25%	7名/28名	28.7%
6	消防設備士 甲種第四類	35%	50%	待ち	名/15名	33.9%
7	消防設備士 乙種第四類	35%	50%	待ち	名/8名	26.7%
8	二級ボイラー技士(学科)	65%	75%	57%	11名/19名	60.4%
9	第三種電気主任技術者(科目合格)	30%	30%	0%	0名/1名	29.5%
10	第三種冷凍機械保安責任者	35%	50%	0%	0名/7名	34.8%
11	情報処理技能検定(表計算2級)	100%	100%	67%	2名/3名	67%
12	情報処理技能検定(表計算準2級)	100%	100%	25%	1名/4名	76.7%
13	情報処理技能検定(表計算3級)	100%	100%	36%	4名/11名	76.6%
14	アーク溶接特別教育	100%	100%	100%	17名/17名	—
15	ガス溶接技能講習	100%	100%	100%	17名/17名	—
16	フォークリフト運転技能講習	100%	100%	100%	6名/6名	—
17	高所作業車運転特別教育(10m未満)	100%	100%	100%	18名/18名	—
18	玉掛け技能講習	100%	任意	100%	0名/0名	—
19	小型移動式クレーン運転技能講習	100%	任意	100%	0名/0名	—

## ②就職率の向上

- ・一年次から就職意欲を刺激する為に、求人情報を**掲示する**
- ・求人企業がどの様な業務をしているかを担任が具体的に説明する
- ・企業見学や就職講話を通して意欲を出させる
- ・一年次から就職を意識した行動をさせる**(出席率等)**
- ・就職フェアへの積極的な参加を促す

## ③授業内容の向上

- ・セミナー・研修を年に一度は受講して個人毎にスキルアップを図る
- ・各教科のシラバスの見直し～修正を学科内の全講師にて行う

## ④実習の充実化

- ・工場見学等を行い仕事のイメージを鮮明にする【沖縄電力・拓南製鐵・コカコーラ等】
- ・インターンシップを通して実作業を体験する
- ・技能五輪対策を経て授業(実習)へフィードバックする

## ⑤出席率の向上

- ・クラス一丸となる事により、学生自ら出席不良者に声を掛けるクラス作りを心がける
- ・90%を切った時点で学生へ通告(担任面談)
- ・85%以下で保護者へ通告(担任面談)
- ・80%以下で学院長面談・理事長面談・保護者面談を随時実施する
- ・面談を通して生活環境の変化や学業に対する意識調査等を行う

## 建築学科 学科目標

2018年 5月28日  
建築学科 我謝 伴美

### 1. 2018年目標

#### A. 資格取得

##### ① 2級建築士

###### (1) 2018年3月卒業生20名中7月受験予定者12名 (※別紙)

- ・合格率40%以上 (2017 : 実績5.55% (学科のみ合格率33.3%・製図合格率16.7%))
- ・2級建築士試験をもとに、学科Ⅰ・学科Ⅱを我謝、学科Ⅲを田原、学科Ⅳを具志で分野を分けて受け持ち、1年次は基礎知識、2年次は2級建築士過去問題を中心に行った。
- ・2年生の1月に、2級建築士試験同様の形式で1日かけて模擬試験を行った。

#### ※上記を行った結果

- ・分野別に受け持つことで、過去問題の傾向が把握しやすく、学生への細かい指導が可能となったが、講師間の進め具合にバラつきがあり、2級建築士試験同様の形式での模試は1度しか行えなかった。
- ・理解度の早い学生が進んでクラスメイトに教えあう姿が見られ、クラス全体で勉強していく雰囲気があった。
- ・過去問題を行う事で理解度を高めることは出来るが、繰り返すことで答えを覚えてしまう為、出題形式を変更するなどの対応が必要。
- ・学科合格者に対しての製図合格者が少ない傾向にある。卒業後1年目に学科、2年目に製図に合格すればよいと妥協してしまう学生が多い。2018年3月卒業生は、6名が在学中に日建学院の製図講座に申し込みを行った。なお2019年の製図講座も、現2年生が在学中に申し込むことを条件に、通常受講料370,000円が220,000円となる割引制度が適用される。(学科不合格の場合は、前納した製図講座受講料は、翌年の学科講座の受講料に充当される。)

###### (2) 現2年生31名中2019年7月受験予定者21名 (※別紙)

- ・合格率45%以上
- ・2級建築士合格率向上に向け、講師の授業構成改善の為、毎月講師間で授業参観を行う。
- ・2級建築士取得に向け意識を高める為、2年次の12月から、2級建築士試験同様の形式で1日かけて過去問題演習を行い、試験を体験させる。
- ・受験予定者は全員、日建学院の放課後講習を受講させる。
- ・卒業1年目に学科に合格し、2年目に製図合格を目指す学生が増えているが、製図の合格率は一般的に50%以上あることを周知徹底し、学科と同時期に目指しても合格は可能だと指導していく。
- ・学科試験合格後に、時間や金銭面の都合が合わずに製図講座を受講しない学生が多い為、学科試験後にスタートする製図講座の申し込みを在学中に済ませ、背水の陣で臨むよう勧める。
- ・製図の授業では、2級建築士製図試験問題の条件に合う間取り作成の練習を重点に指導していく。
- ・製図試験に必要な知識について、CAD演習Ⅱでも関連付けて授業をしていく。

##### ②福祉住環境コーディネーター2級

- ・合格率50%以上 (2017 : 実績42.8%)

- ・1年生の7月受験を目指し、前期での資格対策として3時間の授業を組んでいる。
- ・直近の問題を多く解かせ、試験形式や最新の内容に対応できるように指導する。

### ③色彩士検定3級

- ・合格率90%以上（2017 : 実績82.1%）
- ・1年生の1月受験を目指し、後期での資格対策として3時間の授業を組んでいる。
- ・田原の授業で組んでいるが、より細かな個別対応の必要に応じて、田原・我謝の2名で対応していく。

### ④建築施工管理技士2級(学科)

- ・合格率60%以上（2017 : 実績55.0%）
- ・各学年、前・後期とも、授業時間を2時間から3時間に増やした。
- ・2年生の11月受験を目指し、建築施工Iの中で教科書に重点をおき、2級建築士だけでなく施工管理合格も目指せるように指導していく。そのため、10月からは過去問演習を中心に進めていく。
- ・2018年度以降の学科試験では、建築業法の改正により、従来あった「建築施工管理」、「躯体施工管理」、「仕上げ施工管理」の3種類の受検種別が撤廃され、共通の試験として実施される。そのため、建築分野だけでなく、躯体・仕上げ分野の過去問の分析をし、授業を行っていく。

## B. 就職について

- ・学生の就職意識向上の為、企業見学やインターンシップ等を通し意欲を高め、常に学生の動向を確認していく。
- ・全員、履歴書の下書きを完成させ、すぐに清書できるよう準備しておく。（下書きは学科で保管）
- ・1年生のうちから就職意識を持たせる為、どの分野に向いているのか等学生の相談にはきめ細かく対応し、希望者に応じてインターンシップを実施していく。
- ・進路調査や提出書類作成等、就職担当だけでなく学科講師も連携を取りながら、積極的に指導していく。

## C. 出席率向上について

- ・資格対策授業の導入（前期：福祉住環境コーディネーター2級、後期：色彩士検定3級）することで、クラス全体で合格するという目標を定め意欲を高めていく。
- ・2年生においては、進路（就職・編入）について目標を持たせ、意欲を高めていく。
- ・欠席者に対し、学生同士の声掛けが出来るクラスの雰囲気を作る。
- ・講師が学生の動向について気になる点がある場合は、講師間で相談をして対応を考えていく。
- ・15:50～帰りのHRを行い、学生生活についてメリハリをつける。

## 2. 2017年結果

### A. 資格取得

#### ①2級建築士（2017年3月卒業生38名中18名受験）

- ・合格率：5.55%
- 学科合格率：33.3%（18名受験6名合格）・製図合格率：16.7%（6名受験1名合格）
- 全国合格率：24.3%（学科：36.6%・製図：53.2%）

## ②福祉住環境コーディネーター2級（現2年生・1年次11月受験）

- ・合格率 42.8%
- ・全国合格率：50.4%
- ・田原にて授業内で資格対策として過去問題を中心に授業を行った。

### ※上記を行った結果

- ・目新しい問題に惑わされ、時間が足りなくなってしまう学生がいた。内容は理解しているものの、出題形式が変わると戸惑ってしまい実力が発揮できない学生もいるため、演習量を増やす必要がある。

## ③色彩士検定3級（現2年生・1年次1月受験）

- ・合格率 82.1%
- ・全国合格率 75%
- ・田原・我謝にて授業内で資格対策として過去問題を中心に授業を行った。

### ※上記を行った結果

- ・理論、実技、演習と田原・我謝により受け持つことで、より細かく、学生個々に応じた対応が出来た。

## ④建築施工管理技士2級（学科）（2018年3月卒業生・2年次11月受験）

- ・合格率 55%
- ・全国合格率 40%
- ・具志にて授業内で資格対策として、試験2か月前から集中的に行った。

### ※上記を行った結果

- ・2級建築士の知識だけでは合格は難しいので、1年次から施工管理の内容も含めて、教科書等の重要な箇所を授業で行っていく必要がある。建築士の勉強の延長線上で合格できるほど易しい資格ではない。

## B. 就職活動

- ・就職活動時期が遅かった為、早める必要がある。
- ・履歴書作成に時間が掛かり、書類提出が遅れる傾向にあった。
- ・進級時点で設計か施工か決めきれない学生が多い。
- ・特別授業内で、履歴書作成を行い、学生個々の進路調査を行う事で、春休みの就職に向けての動き方を個別で指導した。
- ・出席率が悪く、就職活動に入れない学生が多かった。

## C. 出席率

- ・1年平均出席率：90.9%
- ・2年平均出席率：88.8%
- ・資格取得や就職など、目標を定め意欲低下を防ぐ必要がある。
- ・出席不良者に対しての対応が遅くなり、科目不足が多く出ていた。
- ・欠席者にクラスメイトが連絡するなど、学生間のコミュニケーションが上手く取れていた。
- ・授業終了時点で帰宅する為、翌日以降の連絡が出来ず、担任と学生間の更なるコミュニケーションの必要性を感じる。

# 2018年度 学科目標

## 【自動車整備科】

### 1. 2018年度目標

#### 1. 資格取得

二級自動車整備士国家試験合格率85%以上(昨年度目標85%)

取得率95%以上(昨年度目標90%)

(2017年度実績 ガソリン95.91% ジーゼル91.83%)取得率95.91%

#### 2. 出席率の維持、確保及び退学者の軽減

各学年、クラスとも平均出席率95%以上

(2017年度実績11期生 1年 A95.6% B95.3%・10期生 2年 A91.6% B94.3%)

年度における進級率及び卒業率95%以上

(2017年度実績11期生 1年 進級率87.9%・10期生 2年 入学者数に対しての卒業率90.7%)

#### 3. 入学者の確保

新入生65人以上

(実績 11期生 58人 10期生 54人)